



平成 25 年 11 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社 ゲオディノス
代 表 者 名 代表取締役社長 光安 浩二
(JASDAQ コード番号 4650)
問 合 せ 先 常務取締役管理本部長 吉住 実
電話番号 011-241-3951

特別損失の計上及び第2四半期業績予想と実績値との差異、通期業績予想の修正並びに 配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成26年3月期第2四半期累計期間において、固定資産の減損損失を特別損失に計上することになりました。その結果、平成25年5月9日に公表しました平成26年3月期第2四半期累計期間の業績予想と差異が発生しましたのでお知らせします。

また、最近の業績動向を踏まえ、通期業績予想及び配当予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

●平成 26 年 3 月期第2四半期業績予想と実績値との差異(平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,200	20	△ 60	△ 80	△ 18.79
今回実績(B)	4,151	110	29	△ 305	△ 71.96
増減額(B-A)	△ 49	90	89	△ 225	
増減率(%)	△ 1.2	450.0	-	-	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成25年3月期第2四半期)	4,048	38	△ 47	△ 69	△ 16.21

●平成 26 年 3 月期通期業績予想数値の修正(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,600	250	80	50	11.74
今回発表予想(B)	8,400	300	140	△ 210	△ 49.46
増減額(B-A)	△ 200	50	60	△ 260	
増減率(%)	△ 2.3	20.0	75.0	-	
(ご参考)前期実績 (平成25年3月期第)	8,370	226	62	59	14.03

修正の理由

1. 特別損失の計上

当社は、「固定資産の減損に係る会計基準」の適用により、運営店舗の一部について減損処理を行い、特別損失として3億52百万円を計上しました。

2. 第2四半期業績予想との差異

売上高につきましては、既存店において、特にフィットネス運営部及びディノス施設運営部(シネマ部門)をはじめ、比較的堅調に推移し、前年同四半期の売上高は上回ることはできたものの、計画していたフィットネス小型店の出店中止等の影響などにより、41億51百万円(前回予想比:49百万円減少)となりました。

営業利益及び経常利益につきましては、主力のGAME運営部の売上高が下げ止まり回復してきたこと、予定していた出店コスト等がかからなかったこと、既存施設の設備の更新等が一部第3四半期に延期になったことなどにより、営業利益1億10百万円(前回予想比:90百万円増加)、経常利益29百万円(前回予想比89百万円増加)となりました。

しかしながら、当四半期純損失につきましては、特別損失を3億52百万円計上したことにより、3億5百万円(前回予想比:2億25百万円減少)となりました。

3. 通期業績予想

売上高につきましては、年初に計画していた新規出店の中止及び延期等の影響などにより、84億円(前回予想比:2億円減少)となる見込みであります。

営業利益及び経常利益につきましては、予定していた新規出店の初期コスト等がかからなくなったこと、減損損失の計上により償却費が軽減できることなどにより、営業利益3億円(前回予想比:50百万円増加)、経常利益140百万円(前回予想比60百万円増加)となる見込みであります。

当期純損失につきましては、第2四半期累計期間に特別損失を3億52百万円計上したことにより、2億10百万円(前回予想比:2億60百万円減少)となる見込みであります。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知お願います。

●配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成25年5月9日発表)	—	0.00	—	1.00	1.00
今回修正予想	—	—	—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00	—		
前期実績 (平成25年3月期)	—	0.00	—	1.00	1.00

修正の理由

当社は、経営体質の強化と今後の事業展開を考慮し、内部留保の充実を図りながら、安定した配当を維持することが重要であると考えております。内部留保資金につきましては、売上増強及び将来における株主の利益確保のための設備投資資金に充当することとしております。

当期の業績予想は、営業利益及び経常利益は上回るものの、特別損失の発生により、上記のとおり、当期純損失を見込んでおります。

当期の期末配当金につきましては、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただきます。株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、財務体質の正常化を着実に進め、企業価値向上に努め早期の復配を目指してまいります。

以 上